

市原の「王賜銘鉄剣」、国宝となるや？

REV. 1 2026年4月5日

2026年3月15日

我部山民樹

(かべやまたみき)

1. はじめに

1976～1977年に千葉縣市原市の稲荷台古墳の1号墳が発掘され、その学術報告書がやっと提出されたことにより、出土した「王賜銘鉄剣」(おうしめいてっけん)が、2026年3月26日の文化財審議会での重要性を評価され、重要文化財保護法に基づく**国の重要文化財に指定されることが決定した**。これで日本所在の銘文刀剣11本のうち、4本が国宝に、6本が国の重要文化財となる。「王賜銘鉄剣」はこの11本の中では3番目に古く、国産最古の銘文刀剣とされ、ヤマト王権の「王」と地方の豪族とのつながりを研究する上で欠かせない重要な資料であり、いずれ国宝に指定されることが期待されるので、比較検討してみる。考古資料としての国の重要文化財は市内初の快挙である。

(学術報告書の提出がかなり遅延したが、その経緯は市のPRESS RELEASE(2022.7.8)「動産引渡請求事件に係る和解が成立」を参照)

(1) 王賜銘鉄剣



古墳の築造は副葬品より5世紀中葉とされていて、剣の製作は450年代とされている。

銘文… (表) 王賜 □□ 敬 (安)… は利刀？

(裏) 此廷 (刀) □□ …… は七支刀の銘にある吉祥句の「辟百兵」と同じだろうか？

解釈例

(表) 王「利刀(よく切れる刀)？」を賜フ。敬(つつし)ンデ[安]ゼヨ。

(裏) 此ノ[刀]を持つ者は百兵を退ける力を持つ。銘文の趣旨は「王賜」にあり、王から古墳の被葬者に鉄剣を授けたことを表現したものと考えられる。この銘文の「王賜」より、「王賜銘鉄剣」と命名されている。

(2) 稲荷台古墳 1 号墳

千葉県市原市山田橋にある稲荷台古墳群は 12 基から成る古墳群で、1966 年から 1977 年に発掘調査がされ、そのうちの 1 号墳より銀象嵌の文字が刻まれた「王賜」銘鉄剣が出土した。1 号墳は径が約 28m の円墳で、円墳としての大きさは中の下程度とされる。また同時期に築造された姉崎古墳は全長約 120m の前方後円墳であり、被葬者は大豪族で国造の海上（うなかみ）氏とされている。古墳の規模より稲荷台 1 号墳の被葬者は中小豪族とされている。

副葬品の鋌留短甲（日本の古代甲冑の一形式で、胸から腰までを覆う胴甲）型式から 5 世紀中葉、北棺の胡籬（ころく、矢を下向きに入れる容器で腰の帯に下げる）金具の型式から 5 世紀後葉と比定されている。また出土した須恵器から、古墳の築造年代は 5 世紀中葉から後葉の早い段階とされている。

被葬者は二人で、副葬品より武人と考えられており、「王」のもとに奉仕し、その功績によって銘文鉄剣を「王」より下賜されたと考えられている。鉄剣の銘文中の「王」は「倭の五王」（*2）の「済」の可能性が強く、「済」は日本書紀にある第 19 代允恭天皇（雄朝津間稚子宿禰天皇、おあさつまわくごのすくねのすめらみこと）との説が有力である。中小豪族の被葬者と「王家」とのつながりやその功績はいかなるものだったのだろうか？

*2. 倭の五王


倭の五王（わのごおう）は、中国南朝の宋の正史『宋書』に登場する倭国の 5 代の王、讚・珍・済・興・武をいう。5 世紀初頭から末葉まで、およそ 1 世紀近くにわたり、東晋、宋、齊などの南朝に遣使入貢し（遣宋使）、また梁からも官職を授与された。倭の五王が記紀（712 年の『古事記』と 720 年の『日本書紀』）における歴代天皇の誰に該当するかについては諸説ある。一例として、江戸時代の松下見林は讚を第 17 代履中天皇、珍を第 18 代反正天皇、済を第 19 代允恭天皇、興を第 20 代安康天皇、武を第 21 代雄略天皇と比定した。


2. 日本所在で古代の銘文刀剣 11 本を一覧表にまとめ、王賜銘鉄剣の位置付けを確認する。（ウィキペディア「鉄剣・鉄刀銘文」より）

番号	名称	発見場所	製作地	年代	国の文化財の指定	備考

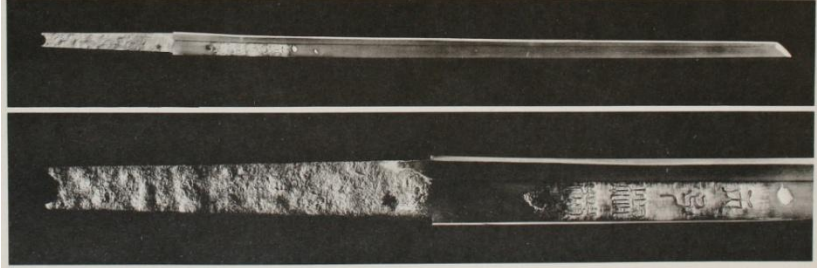

1	<p>中平紀年 銘大刀 (ちゅう へいきめ いてっけ ん)</p>	<p>奈良県天理市 東大寺山古墳より 出土 前長 130mの前方 後円墳</p>	<p>中国 後漢</p>	<p>中平年 間 (184 ～ 189 年)</p>	<p>重文</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 銘文は 24 文字で、金象嵌で「中平□□ (年) 五月丙午造作文 (支) 刀百練清剛上応星宿□□□□ (下避不祥)」 ・ 紀年銘の入った日本所在の遺物で最古のもの  <ul style="list-style-type: none"> ・ 銘は、「中平□□ (年) 五月丙午造作文 (支) 刀百練清剛上応星宿□□□□ (下避不祥)」 ・ 伝世刀 (後世に伝えられた刀) ・ 4 世紀中葉の古墳に埋葬
2	<p>七支刀 (しちし とう)</p>	<p>奈良県 大和政権の武器庫 といわれた石上神 宮 (いそのかみじ んぐう) の伝世</p>	<p>韓国 百濟</p>	<p>泰和 4 年 (369 年)</p>	<p>国宝</p>	


					<ul style="list-style-type: none"> ・百濟皇太子が倭王に献上 ・過去に撮られたX線では銘は計 61 文字、 <p>〔表〕 泰■四年■月十六日丙午正陽造百鍊■七支刀■辟百兵宜供 供（異体字、尸二大）王■■■■■作</p> <p>または、泰■四年十一月十六日丙午正陽造百鍊■七支刀■辟百兵宜 供供侯王■■■■■作</p> <p>〔裏〕先世（異体字、口人）来未有此刀百濟■世■奇生聖（異体字、 音又は晋の上に点）故為（異体字、尸二大）王旨造■■■世であ る。</p> <p>のちにX線CT分析で「泰」の後に「禾（のぎへん）」と思われる線が 見えてきたので、製作年度は泰和四年とされている。その内容から は、「泰（和）四年（東晋の太和4年（紀元369年）にあてる説が有力 （*2）」に、百濟王（近肖古王）の世子（継承者、近仇首王）が倭王 のために百兵を退ける力をもった七支刀を作ったとの趣旨が読み取 れる。</p>
3	王賜銘鉄 劍 （おうし めいてっ けん）	千葉県市原市 稲荷台1号墳 円墳で径27.5m	国産	5世紀 中葉	重文 <ul style="list-style-type: none"> ・国産最古 ・銘文…（表）王賜 □□ 敬 [安])… は利刀？ □□は辛亥銘鉄劍にある利刀と推測できる （辛亥銘鉄劍の銘文に利刀がある） （裏）此廷（刀）□□□… は吉祥句で「辟百兵」か？ 中国の青銅器には古来の伝統として吉祥句を入れることが多かった。 七支刀の銘に「七支刀■辟百兵」とあり、百の兵を退ける力を持つと いう意味であり、□□□はこれと同じで辟百兵と推測できる。

					<p>その意味は、王〇〇を賜う。敬（つつし）んで安んぜよ。この刀を帯びる者は百の兵を退ける力を持つ…であろう。</p> <p>読みの一例</p> <p>王 このよく切れる刀を賜フ。敬（ツツシ）ンンデ [安] ゼヨ。此ノ [刀] を持つ者は百の兵を退ける力を持つ</p> <p>銘文の趣旨は「王賜」にあり、王から鉄剣を授けた（古墳の被葬者から見れば“下賜”された）ことを表現したものと考えられる。それでは、この刀はだれから下賜されたのか、つまり「王」とはだれであったのか、以下の5つが考えられる。</p> <p>①畿内の大王 ②大王の一族 ③中央の豪族 ④地方の豪族 ⑤百済・新羅など朝鮮半島の国王</p> <p>天皇につながる①番ではないか、というのが多数意見である。武具の副葬が目立つことから、稲荷台1号墳に葬られた人は、武人として畿内王権に仕え、その功績により剣を賜ったとされる</p> <p>・王とは倭の五王の「済」？</p> <p>国の重要文化財の指定に向けて「稲荷台1号墳」の学術報告書を作成中</p>
4	辛亥銘鉄剣 (しんがいめいてっけん)	埼玉県行田市 稲荷山古墳 全長 120mの前方 後円墳	国産	辛亥年 (471年)	国宝 

	(金錯銘鉄剣)					<ul style="list-style-type: none"> ・銘文は 115 文字 <p>(表) 辛亥年七月中記乎獲居臣上祖名意富比埜其兒多加利足尼其兒名弓已加利獲居其兒名多加披次獲居其兒名多沙鬼獲居其兒名半弓比</p> <p>(裏) 其兒名加差披余其兒名乎獲居臣世々為杖刀人首奉事来至今獲加多支鹵大王寺在斯鬼宮時吾左治天下令作此百練利刀記吾奉事根原也</p> <ul style="list-style-type: none"> ・オワケ臣がワカタケル大王（獲加多支鹵大王、倭の五王の武とされる）に仕えたとする由緒書き <p>ワカタケル大王は雄略天皇に比定されている</p> <ul style="list-style-type: none"> ・紀年（ある紀元から数えた年数）がある
5	銀象嵌大刀 (ぎんぞうがんたち)	熊本県菊水町 江田山古墳 全長 120m の前方 後円墳	国産	5 世紀 後葉	国宝	 <ul style="list-style-type: none"> ・銘文は、計 75 文字 <p>「台天下獲□□□鹵大王世、奉事典曹人名无(利)弓、八月中、用大鐵釜、并四尺廷刀、八十練、(九)十振、三寸上好(刊)刀、服此刀者、長壽、子孫洋々、得□恩也、不失其所統、作刀者名伊太(和)、書者張安也」である。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ワカタケル大王（獲加多支鹵大王、倭の五王の武とされる）に奉仕したムリテの由緒書き
6	額田部臣 大刀(ぬかたべのおみたち)	島根県松江市 岡田山 1 号墳 全長 24m の前方後 円墳	国産	6 世紀 後半	重文	<ul style="list-style-type: none"> ・銘文は「各田□臣□□□□大利□」の 12 文字 <p>不明な点が多いが、刀を「各田ア臣」に授ける、という意味であるとの推定が有力視されている。なお「各田ア臣」は額田部臣氏の前身と考えられ、このことから 6 世紀後半には○○部と呼ばれる部民（べみ</p>

						<p>ん)が存在していること、「臣」というカバネが存在していること、出雲に氏族が形成されていたことが確認された。</p>  <ul style="list-style-type: none"> ・出雲の伴造（とものみやつこ、地方の豪族）である額田部臣
7	<p>戊辰銘大刀 （ぼしんめいたち）</p>	<p>兵庫県八鹿町 箕谷（みいだに）2 号墳東西12m、南北 14mの円墳、（7世 紀に築造）</p>	<p>国産</p>	<p>戊辰年 （608 年）</p>	<p>重文</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・銘文は刀身の柄（つか）よりに「戊辰年五月（中）」の6文字を刻んでいる。鉄にタガネで線を彫っている ・製作年がある 
8	<p>金錯銘直刀</p>	<p>伝群馬県の古墳</p>	<p>国産</p>	<p>7世紀</p>	<p>重文</p>	 <ul style="list-style-type: none"> ・九州国立博物館蔵 ・刀の切先の形状から7世紀作か

						<ul style="list-style-type: none"> 文字は読み得ないが、六、七字からなるものと思われる。上代の大刀として稀有の資料である。
9	丙子淑林劍 (へいししょうりんけん)	大阪市四天王寺 伝世(出土品でないもの)	国産	7世紀	国宝	<ul style="list-style-type: none"> 銘は4文字で「丙子淑林」 聖徳大師の佩刀とされる 
10	庚寅銘大刀 (こういんめいたち)	福岡市 元岡古墳群 G 群 6 号墳 墳丘の直径が 18m の横穴式石室墳	国産	庚寅正月六日 (570年)	重文	<ul style="list-style-type: none"> 共伴遺物は7世紀中葉 平成41年3月指定 銘文は19文字 「釈読…大歳庚寅正月六日庚寅日時作刀凡十二果…」 「大歳庚寅、正月六日、庚寅の日、時に刀を作ること凡て十二、果たして凍(きた)う」 
11	「甲子年」 銘文鉄刀	熊本市 熊本城跡から出土		甲子年 (60年)	未	<ul style="list-style-type: none"> 2022年に象嵌銘が発見されたばかりで、詳細不明

	(金錯銘直刀身)		に一度 巡る) 五月		<p>・ X線解析によって確認された銘文は6文字で、「甲子年五^月□□」が判読されている。</p> <p>・ 銘文の「甲子年」は604年を指す可能性が高いとされる。</p> 
--	----------	--	------------------	--	--

3. 5世紀の主な出来事

年度	主な出来事	備考
364年	倭兵、大挙して新羅に至る。王これを聞き人形数千を造り、衣を着せ武器を持たせ吐含山の下に列べ立、勇士千人を斧峴の東原に待ち伏せさせる。待ち伏せの勇士を発して不意を打つ。大いに敗利、敗走する倭人を追撃し大半を殺す。	『史記』新羅本記
369年 (泰和4年)(*3)	この年、百済王七支刀(しちしとう)を造る(国宝) 七支刀は、百済王から倭国の王に贈ったとされ、奈良県天理市の石上神宮(いそのかみじんぐう)に伝来している。	
371年	10月、百済、高句麗を攻め高句麗王を殺す。	新羅本記 百済本記
386年	4月、東晋、百済王世子余暉を以って使持節・都督・鎮東將軍・百済王となす	「宋書」帝紀 高句麗本記 百済本記

390年	9月、百済、高句麗の南辺を侵す	高句麗本記 百済本記
391年	新羅・百済は高句麗の属民。倭が海を渡り百済・伽耶・新羅を臣民。	好太王碑文
392年	高句麗公開土王（好太王）、兵4万を率いて百済を伐、石峴城など10余城を陥し、10月、百済北辺の襟要（きんよう）である関弥城を攻略。	高句麗本記 百済本記
413年	（讚？）、高句麗・倭国及び西南夷（西南地域に居住していた非漢民族の総称）の銅頭大師が安帝に貢物を献じる。	「晋書」安帝記
421年	倭王・讚、宗に朝献し、武帝から除授（称号や地位を授ける）の詔を受ける。称号は記述されていないが「安東將軍倭国王」か？	「宋書」夷蛮伝
425年	倭王・讚、司馬の曹達を宋に遣わし、文帝に貢物を献じる。	「宋書」夷蛮伝
438年	・これより先、倭王・讚没し、弟珍立つ。 4月、宗武帝、珍を「安東將軍倭国王」とする。 ・遣使の倭隋ら13人を平西・征虜・冠軍・輔国將軍号を求め、許される。	・「宋書」文帝記 ・「宋書」夷蛮伝
443年	倭国王・済、宗・文帝に朝貢して、「安東將軍倭国王」とされる。	「宋書」夷蛮伝
444年	4月、倭兵、新羅の金城を囲む。新羅王、食料尽き退却する倭兵を追撃、独山の東にて反撃を受け兵の半数を失う。	「史記」新羅本紀
450年	7月、新羅王、高句麗辺将を殺す。高句麗、新羅の西辺に侵入。新羅王謝罪し、兵を収める。	「史記」高句麗本紀、 新羅本紀
451年	・7月、倭国王・済、安東大將軍に進号する。 ・宗に上る所の23人を軍郡に除す（朝貢一行の23人に將軍号・郡太守号を与える）	・「宋書」文帝記 ・「宋書」夷蛮伝
454年	8月、高句麗、新羅の北辺を攻める。	三国史記
455年	10月、高句麗、百済を攻撃。新羅、百済に援軍派遣	三国史記
459年	4月、倭人、兵舟百余艘を以って新羅東辺を襲い、進みて月城を囲む。賊退却に追撃し、更に北に追い海口に至る。賊溺死するもの半ばを過ぎる。	「史記」新羅本紀

450 年代	この頃、王賜銘鉄剣を国内で製作 (文化財の指定を受けるべく技術報告書を作成中) 千葉県市原市稲荷台1号墳(円墳)で発掘	・王が作らせて被葬者に下賜したもの (この王は「済」?)
460 年	12 月、孝武帝へ遣使して貢物を献ずる	「宋書」孝武帝記
462 年	3 月、宗・孝武帝、済の息子、興を「安東將軍倭国王」とする。	・「宗書」孝武帝記、倭国伝
471 年 辛亥年	辛亥年銘鉄剣の製作(国宝) 鉄剣が埼玉の稲荷山古墳から発掘された。 銘文は(表) 辛亥年七月中記乎獲居臣上祖名意富比埜其兒多加利足尼其兒名弓已加利獲居其兒名多加披次獲居其兒名多沙鬼獲居其兒名半弓比 (裏) 其兒名加差披余其兒名乎獲居臣世々為杖刀人首奉事来至今獲加多支鹵大王寺在斯鬼宮時吾左治天下令作此百練利刀記吾奉事根原也 剣の表面 辛亥年7月中記す。オワケノ臣、上祖、名はオオヒコ、其の兒(名は)タカリのスクネ。其の兒、名はテヨカリワケ。其の兒、名はタカシワケ。其の兒、名はタカサワケ。其の兒、ハテヒ。 剣の裏面 其の兒、名はタカサヒヨ。其の兒、名はオワケノ臣。世々、杖刀人の首と為り、奉事氏来り今に至る。ワカタケル大王の寺、シキの宮に有る時。吾、天下を左治し、此の百練の利刀を作らしめ、吾が奉事(仕える)の根源を記す也。	・被葬者が作らせ、由緒書を記す。 ・獲加多支鹵大王(ヤマタケル大王)は第21代雄略天皇(大泊瀬幼武天皇、おおはつせわかたけのすめらみこと)との説が有力である。
470 年代	この頃、江田船山古墳の有銘鉄刀を製作(国宝) 釈読された銘文として「台天下獲□□□鹵大王世、奉事典曹人名无(利)弓、八月中、用大鐵釜、并四尺廷刀、八十練、(九)十振、三寸上好(刊)刀、服此刀者、長壽、子孫洋々、得□恩也、不失其所統、作刀者名伊太(和)、書者張安也」 「天の下治らしめししワカタケル大王の世、典曹(人制)に奉仕せし人、名はムリテという書き出しで、 この刀の服するものは、長寿にして子孫洋々、恩を得る也。其のところ統不失。作刀者名伊太和、書者張安也。	・被葬者が作らせた。 ・獲□□□鹵大王(ヤマタケル大王)は第21代雄略天皇(大泊瀬幼武天皇、おおはつせわかたけのすめら

		みこと) との説が有力である)
470 年代	この頃、5 世紀後半に築造された稲荷台 1 号墳に王賜銘鉄剣を埋葬する。	
477 年	<ul style="list-style-type: none"> ・11 月、遣使して貢物を献ずる。 ・これより先、興没して弟の武立つ。武自ら「使持節督倭・百濟・新羅・任那・奉韓・慕韓七国諸軍事安東大將軍倭国王」と称す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「宋書」順帝記 ・「宋書」夷蛮伝
478 年	<ul style="list-style-type: none"> ・順帝、武を「使持節督倭・新羅・任那・奉韓・慕韓六国諸軍事安東大將軍倭国王」とする。 ・武の上表文…臣が亡考済、実に冠儲の天路を壅塞するを忿する。控弦百万、義声に感激して、方に大挙せんと翼するに、奄に父兄を喪い、垂成の功をして一簣を獲ざらしむ。居しく諒闇にあり兵甲を動かさず。(憶測だが、…控弦百万と言っているのは誇張に違いないが、倭王「済」の配下 23 人は 451 年に三品・四品の高級将軍を除授されているので、10 万、20 万の大軍を編成できただろうと思われる。(大豪族だけではなく、中小豪族も動員させられた) 	<ul style="list-style-type: none"> ・「宋書」順帝記 ・「宋書」倭国伝
479 年	南斉の高帝、王朝樹立に伴い、倭王・武を「鎮東大將軍」(征東将軍)に進号	「南斉書」倭国伝
490 年代	5 世紀後半に築造された稲荷山古墳の辛亥銘鉄剣の埋葬	
490 年代	江田船山古墳の有銘鉄刀の埋葬	
502 年	梁の武帝、王朝樹立に伴い、倭王・武を「鎮東大將軍」に進号	「梁書」武帝紀

*3. 「泰和四年・西暦 369 年」(「CT 分析で見えてきた「泰和四年・西暦 369 年」七支刀の素顔」より)

今回の大きな見どころの一つが、七支刀に対する **CT 分析** である。
 肉眼ではサビに埋もれて読みにくい部分も、CT 画像を重ねることで、鉄の部分とサビの部分をはっきりと確認できるようになった。その結果、これまで議論があった文字の一部、特に年号にかかわる部分、泰の後に「禾(のぎへん)」と思われる線が見えてきたのである。この「禾」

が入るかどうかで、銘文に書かれた年号をどう読むかが変わって来る。現在有力なのは、中国・東晋の年号 **泰和四年**であり、これを西暦に直す 369 年であり、七支刀は、**369 年に製造されたこと**になる。

4. 検証

(1) 稲荷台 1 号墳

直径 27.5m の円墳型古墳は小型とは言えないが、大型とも言えない、中型のクラスである。全国の円墳の中では「中の下」クラスの規模と言われている。さして大きくない古墳（*4）から王賜銘鉄剣のようなものが出て来ると古墳研究の中では大問題と言える。この地では 12 基以上の古墳があるが全て円墳である。同時期に築造された近隣の二子塚古墳は国造上海上（うみつうなかみ）の墓で長さ約 120m の前方後円墳である。

稲荷台 1 号墳は近隣の国造の墓より小規模なので、被葬者は中小豪族であろう。

*4. 稲荷台 1 号機と同時期に築造された古墳との比較表

	稲荷台 1 号墳	姉崎二子塚古墳	北野天神山古墳
所在地	市原市山田橋	市原市姉崎	市原市菊間（個人の敷地内）
形状	円墳	前方後円墳	円墳（前方後円墳の可能性あり）
築造時期	5 世紀半ば	古墳時代中期（5 世紀前半～中頃）	古墳時代中期（5 世紀前半～中頃）
規模	径 28m（円墳として中の下大きさ）	全長 103m	径 41m
被葬者	部民（べみん、べのたみ）制度の一つとして、允恭天皇の皇后・忍坂大中姫の名代（なしろ）（*5）の刑部（おさかべ）が市原郡の領民であり、その長の中小豪族	国造・上海上（かみつうなかみ）氏 国造；大和政権に服属した地方豪族の首長	国造・菊麻氏（来熊田氏？）
出土品	中央棺：「王賜」銘入など鉄剣 3・短甲 1・鉄鏃 10・刀子 1、北棺：鉄刀 1・鉄鏃 10・胡籜（ころく）金具 1 式・きさげ状金具 1・砥石 1	鏡 3・勾玉 8・管玉 4・琥珀棗玉（こはくなつめだま） 5・ガラス小玉 300 以上・直刀片 2・鉄矛片 1・甲冑片・金銅金具片・滑石製品（刀	

	<p>○短甲</p>  <p>○須恵器</p> 	<p>子形 5・有孔円板 2・白玉 3・立花 4) など。前方部からは、直刀 2・銀製耳飾り 2・瑪瑙 (めのう) 勾玉 1・直弧文石枕 1・鉄鏃 100 以上・鉄矛・かぶと片・馬具轡 (くつわ) 片。また、墳丘の中段と下段に円筒埴輪列が確認。円筒埴輪列には和泉式の高杯が出土</p> <p>○石枕</p> 	
文化財	<ul style="list-style-type: none"> ・「王賜」銘鉄剣が市指定有形文化財に指定 ・2026年3月26日、国の重要文化財の指定が決定される 	石枕が国の重要文化財に指定	

(2) 被葬者

- ・被葬者は二人で、副葬品に武具の短甲や胡籜があるので武人である。王権とのつながりを考慮すると允恭天皇の皇后・忍坂大中姫(おさか おおなかつひめ)の領有民の刑部(おさかべ)(*4)であろう。上総国市原郡や長狭郡一体に刑部郷があり、刑部が稲荷台古墳の近辺に分布している。市原郡に刑部直千国(おさかべのあたいちこく)・刑部稲麻呂・刑部荒人・刑部子里人などが分布しており、刑部直(おさかべのあたい)や刑部を名乗る人々が居住していたことが「万葉集」や東大寺の正倉院に残る文書・康白布墨書銘によって知られている。

*4. 大和王権の名代の刑部

・部民制

大和王権の**部民制**（べみんせい）とは、血縁原理に基づく職能集団のことで、全国の部民は、畿内の王権を構成する豪族と、職能別に擬制的（法律上同一とみなす）な血縁関係を有することとなり、それぞれが畿内豪族に仕えて、その畿内豪族を通じて大和の王権に奉仕する仕組みができあがり、大和政権が全国に展開していく基礎となった。

・名代（なしろ）

名代は、部民制における集団のひとつ。一定の役割をもって大和王権に奉仕することを義務づけられた大王直属の集団（農民、中小豪族）である。

記紀の伝承をみると、品遅部（ほむちべ）＝垂仁皇子誉津別（ほむつわけ）命，夷登志部（いとしべ）＝垂仁天皇皇子伊登志別（いとしわけ）王，武部（たけるべ）＝景行天皇の皇子日本武（やまとたける）尊，葛城部（かつらぎべ）＝仁徳天皇皇后磐之媛（いわのひめ）（葛城氏出身），軽部（かるべ）＝允恭天皇太子木梨軽（きなしかる）皇子，**刑部（おさかべ）＝允恭天皇皇后忍坂大中姫（おさかおおなかつひめ）**，穴穂部（孔王部）（あなほべ）＝允恭天皇皇子穴穂（あなほ）皇子などの例が記録される。これにつづく時代に、長谷部（はせべ）＝雄略天皇（大泊瀬幼武（おおはつせわかたけ），泊瀬朝倉（はつせのあさくら）宮），白髪部（しらがべ）＝清寧天皇（白髪大倭根子（しらがのおおやまとねこ）），勾部（まがりべ）＝安閑天皇（勾金橋（まがりのかなはし）宮），檜隈部（ひのくまべ）＝宣化天皇（檜隈廬入野（ひのくまのいほりの）宮），金刺部（かなさしべ）＝欽明天皇（磯城嶋金刺（しきしまのかなさし）宮），他田部（おさだべ）＝敏達天皇（訳語田幸玉（おさだのさきたま）宮）などが記録される。品遅部以下，穴穂部までは，后妃が皇子・王子を養育するため，壬生（乳父）（みぶ）としてその宮にあてられた，いわゆる湯沐（とうもく）料をさすものと思われ，子代（こしろ）にあたる。長谷部，他田部などの後者は天皇の宮にあてられ，舎人部（とねりべ），膳夫部（かしらでべ），鞆負部（ゆげいべ）などに部の呼称が分かれているのをみると，宮に出仕する舎人，膳夫，鞆負などのトモ（伴）の資養にあてられた部（べ）であると思われ，名代にあたると思われる。いずれもそれを管理する氏族の所有に帰したものが多く，大化の改新ですべて廃止された。部（べ）は農民だけでなく豪族も含む。

因みに、国造（こくぞう、くにのみやつこ）は大和王権に服属した地方首長の身分の称。地方統治にあたらせ、大和王権は国造制のもとに地方支配体制をかためた。上総国には菊麻国造と上海上（かみつうなかみ）国造が置かれた。国造本紀によると国造は120～130名程度とされている。（重複もあるため）

(3) 鉄剣の生産地

- ・この時期、朝鮮半島から出土するのはほとんど片刀で両刃の剣は少ない。それに半島製なら「王」ではなく「百済王」とか「新羅王」とか明記しているはずである。

- ・鉄分の組成分析測定の有無は不明。

生産地は日本国内であろう。

(4) 年代

- ・この時期、中国から下賜品だとすれば干支が入るはずである。この時期の日本には年紀が無いので鉄剣の銘からは製作時期を特定できない。

- ・出土した須恵器の年代が学会で承認されていて、古墳の築造が5世紀半ばか後半なので、王賜銘鉄剣は5世紀半ばに下賜されたとされている。

(5) 王はだれか？

前之園亮一著『「王賜」銘鉄剣と五世紀の日本』によると、

- ・5世紀の畿内の王は、倭国を代表して中国南朝に遣使して倭国王の地位を承認されているので、5世紀中葉に「王」とだけ表記すれば、畿内の大王をおいて他にないことになる。

- ・「済」であろう。「済」は「記紀」の允恭天皇であろう。「済」の在位期間（443年～462年）が銘の下賜年代（450年代）と一致する。

- ・允恭天皇は稲荷台遺跡の所在する市原郡とのつながりが強い。允恭天皇の皇后「忍坂大中姫」（おしさかのおおなかつひめ）の「名代（なしろ）の刑部（部民の一つで忍坂大中姫の名代として設定された）」が市原郡に分布していた。忍坂大中姫と允恭天皇は一心同体であるかのように描かれている。従って皇后を介して允恭天皇と市原郡がつながっていると言ってよいと思う。

- ・允恭天皇は刀剣製造と関係が浅くない。即位前は朝妻に居住したと伝わり、朝妻造は金属加工に従事していた。皇后の忍坂大中姫は忍坂宮に居住しており、この近くには刀剣を収蔵する武器庫があった。

(6) 剣を下賜された被葬者の功績

前之園亮一著『「王賜」銘鉄剣と五世紀の日本』によると、次の三通りが考えられるとある。

①稲荷台1号墳の被葬者は、忍坂大中姫の刑部として長年忠実に仕えたからであろう。被葬者の刑部は一族や従者を引き連れてはるばる大和に赴き、宮殿の警備にあたる刑部駟負（おさかべゆげい）として、皇后・忍坂大中姫の宮殿を守衛し、その夫の允恭天皇にも仕えたと推測される。忍坂宮と允恭天皇の遠飛鳥宮との距離は比較的に近いし、一心同体の関係だったとされる。忍坂大中姫に奉仕しているうちに允恭天皇にも仕えたのではなかろうか。允恭天皇に仕えていない場合でも、被葬者に一方ならず感謝した忍坂大中姫のたつての願いを聞き入れて允恭天皇が鉄剣を下賜したことも推測される。

②忍坂の武器庫の武器武具を、猪膏を用いてみがく職務に従事していたからであり、その忠勤を励んだ功勞に対して「王賜銘鉄劍」を下賜したのであろう。

③倭王濟は、約 20 年間の治世で高句麗遠征に熱意を燃やしていた。皇后忍大中姫を介して被葬者がその遠征に積極的に協力したとしても不思議ではない。倭王の配下 23 人は宋の文帝より三品・四品の高級將軍を除授されたが、23 人の高級將軍のいる大軍であれば、大豪族の兵だけでは不足するし、国造は地方統治にあたらせているので動員出来ない。それで、被葬者ら地方の中小豪族にも協力させたのであろう。被葬者は后妃の刑部なので協力を惜しまず、真っ先に率先して動員に応じた。生死にさらされる危険を厭わず協力してくれたことに、倭王濟は感謝し、銘文を象嵌した鉄劍を下賜したのであろう。

しかし、高句麗遠征への報いとなれば有銘鉄劍は少なくとも 23 本はあるはずであるが、王賜銘鉄劍発掘後、半世紀近くを経ても他には見つかっていないのは謎である。今後発掘されるかもしれない。

稻荷台 1 号墳の被葬者は中小豪族とはいっても、かなりの経済力を有する裕福な首長であったと思われる。彼が一族子弟を率いてはるばる大和へ赴いて、允恭天皇や忍坂大中姫に長年にわたり仕えたりしたことや、高句麗遠征に参加できたのは、それだけの負担に耐えうる経済力を有していたからにはほかなるまい。ただし富裕であるにも関わらず稻荷台 1 号墳と言う小規模な円墳しか築けなかった。それは、身分が高くなかったからであり、近隣の菊麻国造や上海上国造から前方後円墳・大型円墳を築造することを規制され・禁止されていたからであろう。1 号墳の所在する市原台地やその奥の房総丘陵にも大木の茂る広大な森林があり、船舶・建築材・棺材・その他の山林の幸の採集や狩猟の場となっていたと推測される。

5. さいごに

国の重要文化財には指定されると推測するが、国宝に指定されるための条件を満たしているかについて条件を比較してみる。

まず、重要文化財や国宝として指定されるためのポイント

- ・製造時期の有無
- ・授けた人物？
- ・授けられた人物？
- ・授けられた理由？
- ・製造年代の古さ

・歴史上の重要人物の実在性の証明や歴史的価値が重要と考えられ、国宝に値する各条件の重要度の高さは憶測できないが、王賜銘鉄劍を従来国宝に指定されている銘文刀劍と比較してみる。

○国宝指定の有銘刀剣と王賜銘鉄剣

番号	名称	種別	製作地	年代	国の文化財指定	特徴
1	七支刀 石上神宮伝世	剣	韓国	369年	国宝	<ul style="list-style-type: none"> ・製作年紀が入っている ・百済皇太子が倭王のために献上 ・日本所在で2番目に古い銘文刀剣である
2	辛亥銘鉄剣	剣	国産	471年	国宝	<ul style="list-style-type: none"> ・製作年紀が入っている ・全長120mの前方後円墳稲荷山古墳から出土 ・被葬者が製造させた剣 ・日本所在の4番目に古い銘文刀剣である ・ヤマタケル大王が実在人物であると証明
3	銀象嵌大刀 (ぎんぞうがんたち)	大刀	国産	5世紀後葉	国宝	<ul style="list-style-type: none"> ・全長120mの前方後円墳江田山古墳から出土 ・被葬者が製造させた剣 ・日本所在の5番目に古い刀剣である ・ヤマタケル大王が実在人物であると証明
4	丙子淑林剣 (へいししょうりんけん) 四天王寺伝世	大刀	国産	7世紀	国宝	<ul style="list-style-type: none"> ・日本所在の9番目に古い刀剣である ・伝聖徳太子愛用刀 ・伝世品
5	王賜銘鉄剣	大刀	国産	5世紀中葉	重文	<ul style="list-style-type: none"> ・円墳としては、中の下の大きさの稲荷台1号墳から発掘されたので被葬者は中小豪族と思われる ・被葬者は允恭天皇皇后・忍坂大中姫領民の刑部と推測 ・日本所在で3番目に古い銘文鉄剣 ・国産最古の銘文鉄剣 ・允恭天皇と推測される「王」が下賜した鉄剣 ・「王」と地方豪族とのつながりを研究できる

ウィキペディアによれば「王賜銘鉄剣」は、学術的価値や希少性の高さから、将来的に国宝指定の候補となる可能性がある。「王賜銘鉄剣」は国産最古の銘文刀剣であり、ヤマト王権の「王」が稲荷台1号墳の被葬者である地方豪族に与えた剣と考えられており、鉄剣と一緒に見つかった短甲と呼ばれる鎧（よろい）や、胡籬（ころく）と呼ばれる矢入れなどの武具と共に、ヤマト王権と地方豪族とのつながりを研究する上で欠かせない貴重な資料として高く評価されて重文に指定されていること、また古代の銘文刀剣4本がすでに国宝に指定されていることから、「王賜銘鉄剣」が今後国宝に指定されることが十分に期待できるのではなかろうか。その日が待ち遠しい限りである。

参考資料

- ・「エンジン03 in 市原」の講座「国産最古？いちはらの至宝『王賜銘鉄剣』の謎に迫る」 講師；茂木健一郎、熊本マリ、小橋健司（市原市の学芸員）、辰巳琢郎
- ・市原市教育委員会発行；「王賜銘鉄剣 概報」（千葉県市原市稲荷台一号墳出土）
- ・木對和紀著；「王賜」銘鉄剣といちはら」
- ・前之園亮一著；「王賜」銘鉄剣と五世紀の日本」
- ・千葉日報社；……古代東国ロマン「王賜」銘鉄剣」（稲荷台古墳・神門古墳群）
- ・ウィキペディア

以上